

## 第39回 埼玉県新型コロナウイルス感染症専門家会議 概要

1. 日時：令和3年7月20日（火）17：00～18：30

2. 会場：庁議室

3. 委員（敬称略 五十音順）

池田 一義	（一般社団法人埼玉県商工会議所連合会会長）	（WEB参加）
岡部 信彦	川崎市健康安全研究所 所長	（WEB参加）
金井 忠男	埼玉県医師会 会長	
川名 明彦	防衛医科大学校 教授	（WEB参加）
小谷野 和博	（埼玉県中小企業団体中央会会長）	（WEB参加）
近藤 嘉	日本労働組合総連合会埼玉県連合会会長	（WEB参加）
坂木 晴世	国際医療福祉大学大学院 准教授	（WEB参加）
讚井 將満	自治医科大学附属さいたま医療センター 副センター長	（WEB参加）
竹田 晋浩	かわぐち心臓呼吸器病院 理事長・院長	（WEB参加）
松田 久美子	埼玉県看護協会 会長	
光武 耕太郎	（埼玉医科大学国際医療センター 教授）	（WEB参加）
三村 喜宏	埼玉県商工会連合会会長	（WEB参加）

4. 県側参加者

大野 元裕	知事
安藤 宏	危機管理防災部長（WEB参加）
山崎 達也	福祉部長（WEB参加）
関本 建二	保健医療部長
本多 麻夫	保健医療部 参事
板東 博之	産業労働部長（WEB参加）
岸本 剛	衛生研究所 副所長

## 5. 主な意見

### ア 現状の分析・評価について

- 高齢者の重症者が減っており、対策の効果が出ていると言えるものの、感染者の絶対数の増加により、重症者数が増加する懸念がある。（岡部委員）
- 現時点では医療現場のひっ迫には至っていないものの、感染者数の増加の速さを考慮すると、一瞬にしてひっ迫する恐れがある。（川名委員）
- 現状、重症患者は多くないものの、中等症か重症化しやすいようになりリスク因子を持つ人が紛れており、急激な患者の増加も考慮すると、注視する必要がある。（光武委員）
- 保育園、幼稚園でのクラスターについて、今のところはデルタ株が大きな影響及ぼしている疫学状況にはないものの、デルタ株に限らず今後変異株については慎重に見ていく必要がある。（岡部委員）

### イ まん延防止等重点措置区域の指定・解除の目安について

- まん延防止等重点措置区域の指定・解除の目安及び坂戸市、吉川市を警戒区域とすることについて異議なし。（委員一同）

#### 【県の対応】

- 県内の感染状況及び委員の意見を踏まえ、まん延防止等重点措置区域の指定・解除の目安及び坂戸市、吉川市を警戒区域とすることについて決定した。

### ウ 若者に向けたワクチン接種の勧奨について

- 不妊になったり、マイクロチップを埋め込まれたりといった誤った情報が流れているため、我々専門家や行政から正しいメッセージを発信する必要がある。また、接種することにより、若者にとって直接利益となり得ることを示す必要があるのではないか。（岡部委員）
- ワクチンを打たないことによって、コロナに感染して起こり得る長期的な後遺障害や、妊娠に関する情報など、ワクチンに関する全ての情報を整理し、分かりやすく発信する必要がある。（坂木委員）

- 学生の場合、先生から言っても伝わらないということであれば、チャンネルを変え、様々な方面から若年層に対してアプローチをかけたほうがいいのではないか。（近藤委員）
- ワクチンを打つことで安心して対面授業ができるとか、対外的なクラブ活動ができるということはインセンティブになるのではないか。（川名委員）